

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501078		
法人名	医療法人 光輪会 大牟田セントラルクリニック		
事業所名	グループホームフェニックス苑		
所在地	福岡県大牟田市新町395		
自己評価作成日	平成27年12月2日	評価結果確定日	平成28年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成27年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは旧三池街道沿いの閑静な住宅街に位置している。ホーム前の公園からは元気の良い子供の遊び声やゲートボールをしている声が聞かれる。桜の名所で春は毎日花見にでかけ地域の方との交流を楽しんでいる。住宅は木造建築で入居者の方がこれ迄暮らしてきた生活の場と同じように安心して過ごしていただいている。運営団体が医療法人であり、医療との連携で健康管理を実施。入居者とその家族の方達に安心して生活していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームフェニックス苑は、理念に「笑顔、尊敬、尊厳、安全」を掲げ、管理者は「自分の親がされて嫌なことはしないで」と穏やかな対応を指導している。そして、入居者の生活歴に注目して入居者同士の争い事での暴言を仲裁したり、行動の背後にある思いや背景を検討した支援で、理念の実践に努めている。また、看護師2名の配置で医師への連絡体制が構築され、年間1.2名の入居者を看取っているが、今年6月の10年余り入居されていた方の看取りでは、身寄りもないためホームで葬儀まで行っている。あんしん介護相談員、家族、地域の公民館館長に運営推進会議に参加していただいているが、春の避難訓練にも、家族や民生委員、あんしん介護相談員や地域の方10名の参加があるなど、地域の理解や協力を得ながら、入居者の暮らしを支えている。職員の資格取得を奨励したり、育児休暇取得の支援もあるため離職が少なく、馴染みの関係を継続しながら、理念の実践に励んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームフェニックス苑**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念→「笑顔・尊敬・尊厳・安全」 基本方針→「地域社会の一員として、生活し、日々の笑顔・尊敬・尊厳・安心を共有して実践している」	管理者は、日頃から人生の先輩を上から目線で接してはいけなと、理念を職員に分かりやすく話している。職員は、目上の方に対する言葉かけが、自分への対応として帰ってくることを実感している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館行事への参加。公園への散歩で地域とのつながり交流を図っている。年間行事としてどんど焼き、清掃活動、大蛇山作り、大蛇山祭り見物と交流を図っている。	町内美化活動の参加や大蛇山祭りの山車の出来上がり過程を見物に出かけたり、三池地区の初市やゲートボールで顔なじみの方との交流がある。最近では、クリスマスの飾りをもってきてくださるなどのご近所づきあいがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館行事への参加を重ねる毎に地域の方より心温まる声かけして頂き。グループホームへの理解が深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、当苑の現状や利用者の状況を報告し、今後の課題を各委員、御家族からの助言や意見等を出し合い運営に活かすよう取り組んでいる。	行政やあんしん介護相談員、家族、地域の公民館館長が町内理事として参加しているので、三池地区の初市や光竹祭り等の地域行事の案内があり、入居者の外出に繋がっている。外部評価を受けることが報告され、職員が分担して記載した自己評価が議事録とともに玄関に公表されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿社会推進課職員や地域包括支援センター職員、あんしん相談員との交流等で意見交換を行いケアサービスの見直しを図っている。	地域包括支援センターと居室の空き情報や入居の問い合わせ等で連携したり、毎月来訪しているあんしん介護相談員から誘導の声掛けが大きいとの意見があり、職員研修を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束について」の外部での研修や苑での勉強会を実施している。何が拘束なのか、拘束のないケアを正しく理解し、実施している。	職員研修で身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を理解している。帰宅願望のある方には玄関で声をかけたり、一緒に歩いて自宅に行つて、本人が納得するように支援している。計画作成担当者は、認知症SOSの模擬訓練に参加している。	見守りネットワークの意識の高い地域なので、外出傾向のある入居者に関する情報提供等の協力をお願いできるように運営推進会議や隣組長会に諮ってはいかががでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の防止について」外部での研修や、苑での勉強会を実施している。当苑では、日常のケアの中で無意識に虐待をしていないか、又虐待の事例に適切にいないか、職員で意見交換をして適切な介護をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護全般に関して研修会を全員参加で実施。不明や疑問点を話し合う事で意識向上を図っている。	権利擁護に関する資料を整備している。現在、活用している入居者はいないが、家族から相談を受け、地域包括支援センターにつないだり、制度の説明をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改良の際十分時間をかけて説明を行い、利用者、御家族に理解納得を得られるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望を引き出せる環境を作り、出された意見要望を真摯に受け止めケアに取り入れている。又あんしん介護相談員の定期的な訪問を受け利用者の相談相手になって頂いている。	家族会を運営推進会議後に開催したり、避難訓練と一緒に参加してもらい、意見をひきだす機会にしている。家族からホーム入口の坂や床の老朽化について意見が出され、できることから着手されている。家族とのやり取りは連絡ノートに記載して共有してる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のカンファレンス、定例勉強会、検討会の実施。代表者と連絡ノートで意見や提案を交換し、スタッフ間で検討し、運営に反映させている。	定例の勉強会は、全員が参加できるように配慮され、夜勤者も参加できる時間帯に設定している。リネン交換を昼間にして夜勤者の負担を軽減することや、車イスばかり使用しないでトイレ誘導は徒歩での提案が実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各スタッフの努力や実績、勤務状況を把握している。労働時間も法令厳守している。年に数回の食事会で交流を図り絆を深め、向上心を持ち働ける環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用は有資格者を優先しているが年齢、性別など規定はない。常に経験や実績、能力を発揮して生き生きと勤務、社会参加や自己実現の権利が十分保証されるよう配慮している。現在、産休、育休制度を活用し、来春には復帰の予定の職員もいる。子育て支援の環境も整っている。	職員の採用は特に規定はなく、働きながら資格取得を奨励している。シフトの希望や休日、有給休暇の取得は保証され、育児休暇を取得中の職員もいる。外部研修の資料を回覧し、希望者の参加を促している。幼児同伴で参加できる法人主催の年に3度の食事会が恒例となり、職員たちの交流を行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	「倫理及び、法令厳守」の研修の実施で人権尊重と啓発活動をして人権尊重の意識づけをしている。	外部研修で人権研修を受けたり、職員研修で入居者の人権教育を実施している。入居者同士の争い事では管理者は入居者の生活歴に注目して、暴言を言わないように仲裁し、掲げている尊敬・尊厳の理念の実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月定例研修会、又は外部の研修会に参加。全員に伝達、報告書を提出する事で資質の向上を図っている。又、新入職員にはレポートを提出させ業務到達度の理解を見極めている。場合により、管理者の指導・助言がある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の主催する研修会、あんしん介護相談員との意見交換会に参加サービスに取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭での過ごし方や、以前通っていた通所や入所状況などの詳細をスタッフ全員が把握し安心して生活できるように心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろんの事、預ける側の家族としてもかなり不安があると思いますので相談事や要望には特に耳を傾け不安を払拭するように努めている。家族と話の出来る場を持つよう支払いも振込ではなく事業所へ来所して頂いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時、不安が強い中、少しでも笑顔のけるケアとなるよう言動に注意を払っている。家族からの情報を大切に取り組んでいる。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てに手を出すのではなく、状況に応じて可能なことは出来るだけやって頂いている。それが本人の自信や喜びとなるような支援を心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、家族会、電話で現状報告を行っている。この事で家族の意見を聞きどんな風に支援すれば楽しい生活が送ってもらえるかを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族、身内の方、知人の面会でゆっくり話をされる機会を作っている。又家族と買物、食事、法事等で外出される。地域でのどんど焼きでは地域の方々と楽しくお話しをされ楽しい時間を過ごして頂く様に心掛けしている。	馴染みの美容室に行かれることもなくなり出張美容を利用している。家族と食事や買い物、高塚地蔵までドライブに出掛けたり、自宅近くの知人からゴーヤの差し入れがあるなど、家族や知人との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者さんが若かりし頃の話がされたり、スタッフが間に入り孤立されない様に見守り、コミュニケーションをとるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、御家族にお会いした際には、お話を聞き、相談や悩みがあれば必要に応じて支援している。イベントに参加して頂く様に声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在の心身状況を把握し、日々の生活の中で変化を受け止め、その状況を職員間で共有して対応出来る様心掛けています。	申し送り時、定例の勉強会、担当者会議で入居者の基本情報や入所時の記録、現在の状態を共有し、入居者の行動の背後にある思いや背景を検討している。対馬出身の入居者は、対馬の話をすると喜ばれたり、実家の話をすると暴言が少なくなる入居者もいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴、性格等や在宅での様子を本人や家族に聞き、苑での生活がスムーズに送れるように支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況(体調面、精神面)の変化を認識し職員間で共有してチームケアの充実を図っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	苑での生活が本人らしく送れるように、本人家族の意向を聞き日々の状態を職員間で共有し苑の状況を考慮し申し送りや、担当者会議等を踏まえて介護計画を立てている。	介護日誌に介護計画を添付して全員が計画を共有している。計画作成担当者は、職員から入居者の現状を聞き取り、担当者会議で支援内容を検討して計画を見直している。管理者は家族に介護計画の他に、現状や転倒のリスクについても説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護日誌に記載し、特記事項を申し送りノートに記載し、必ず職員が目を通し確認している。担当者会議や朝の申し送り等で情報を共有してサービスの向上を図ってる。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中での心身の変化を考慮し職員間で連携を図りながら、健康面、医療面を考慮して介護サービスに対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会的資源や地域包括支援センター等を活用しながら本人を支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで個々の状況を把握、理事長でもある主治医へ報告し指示に基づいて適切な医療が受けられるような体制をとっています。家族に説明し希望があればそれに添うような体制をとっています。入院を希望され、病状が回復し退院された入居者もいます。	理事長である主治医が毎日来所し、入居者の心身の状況に応じた適切な医療を提供している。眼科など専門医への検査や受診をホームで支援している。訪問歯科医による口腔衛生も支援されている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の観察状態を職員間での申し送りや会話の中で共有し主治医と相談しながら個々の利用者が適切な受診が出来る様支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時にはその病院に利用者さんの入院状況容態等を聞き症状を把握し安心して退院できるように、又受け入れ準備を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期のあり方については、状況を把握し契約者、医療機関との連携の中で職員と対応について協議し医療担当者に助言を求めて家族と話し合い事業所に対応できる事を説明、家族の希望を受け入れる方向で取り組んでいる。	看護師2名の配置で医師への連絡体制が構築され、年間1.2名の看取りをしている。今年6月には10年余り入居されていた方の看取りをしているが身寄りもなく、ホームで葬儀まで行っている。職員はすぐに医師、看護師に連絡できることで不安はあるが、心強いと話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日バイタルチェックで体調の変化を把握、変化時かかりつけの医師に報告、医師の指示は全職員に申し送り一体化の体制をとっている。定期的に救命処置の手順の学習会を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を実施、地域の公民館消防団、民生委員の協力を得て災害に対する体制をとっている。春の実施時は近隣の住民に協力を依頼し参加してもらっている。	春の訓練では、入居者の家族や民生委員、あんしん介護相談員や地域の方10名が、入居者と共に訓練に参加されている。秋は緊急連絡網を使った呼び出し訓練を行っている。スプリンクラーの水の止め方や、水消火器を使った消火訓練、救急蘇生法などを研修し、訓練実施後は職員一人ひとりに感想文を提出してもらい、より実践的に動けるように啓発を続けている。	地域を巻き込んだ避難訓練を継続して、ホームへの理解をますます深めてもらえるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時は恥ずかしい思いをさせない様に気配りして介助する。	管理者は新人の職員に対して「本人に名前を聞いて下さい」と話し、入居者が呼ばれて心地よい名前で呼びかけるようにしている。また、「自分の親がされて嫌なことはしないで」と指導し、穏やかな対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で出来るかぎり利用者さんに声かけしながら気分を悪くしない様に取り組んでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、日中の過ごし方など利用者さんに合わせ話しながら支援に取り組んでいる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室に来て頂き入居者にあった身だしなみを行っている。本人さんに鏡を渡します。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物を注ぐときはやけどしない様に、温度を考え利用者さんと一緒に準備しています。おはし、皿なども近くの人に配ったりしています。	法人の厨房で作った給食を利用しているが、入居者に合わせて、ホームで刻みやミキサー食に加工して提供している。職員と一緒に季節ごとにらっきょう漬けや酢漬け、ビワのコンポート作りなどで、調理の力を発揮できるように支援し、入居者の喜びや自信に繋がっている。誕生会ではビールやジュースでお祝いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事摂取量は毎日記録し摂取量は把握できる。自分で摂取できない入居者は介助する。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施している。自分で出来る方について見守り声かけ出来ない方については介助を行った後義歯は消毒を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人のパターン(自ら席を立つ人や声掛け誘導等)に応じた支援を実践している。	行政の主催する排尿トラブル予防教室に参加したり、チェック表で入居者のパターンを把握することで放尿などのトラブルが減少している。居室でポータブルトイレを利用する場合には、排泄されてすぐに処理することを徹底して、防臭に配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の記録を行い量もチェック。下剤に頼らず、規則正しい食事をして頂き、水分補給や適度な運動等を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その都度本人の状態や体調を把握し入浴の順番や日程を変更。月に一度は送迎にてデイのある大浴場も楽しんで頂く。	週2~3回を目途に、午前中から入浴を支援している。ヨモギや菖蒲湯、橙を入れて季節感を楽しんだり、同法人のデイサービスの大浴場に出掛けることもある。入浴を拒否する方はいないが、職員2名で介助したり、足浴しながらシャワー浴で対応する入居者もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の明かりや室温調節を行い夜間も「私がいるので安心して下さい」等声掛けをして、不安感を与えないようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的を確認し、間違いがないよう日付、名前を必ず確認して飲んで頂いている。不明な点は医師、看護師とすぐに相談できるようになっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近くの公園は散歩に行ったり地域の行事(祭りなど)の参加、ホームでも催し物を行う。天気の良い日は戸外へ散歩する。季節感のある行事も行っている。地域のお祭り、行事に参加し楽しめる機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の協力を得て、外出を積極的に行っている。催し物にご家族にも参加して頂いている。	系列のデイサービス花の里の大浴場で入浴したり、誕生会でボランティアの出し物を楽しんだり、恒例の花の里まつりに楽しんで出かけている。買い物に外出したり、家族と外食に行かれる入居者もある。また、地域行事への参加で顔見知りの方とかわす挨拶も楽しみの一つになっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お祭りの日はご家族からお預かりしたお金を渡し好きな物を買って頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話してほしいと言われた時は職員が電話をかけご家族と話をして頂いている。御家族に近況をお話している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整して居心地のよい温度で過される。食事の用意はスタッフと一緒に進んで行く。ソファに座り会話したり、洗濯物をたたみながら、話をされたりカラオケで歌ったり、個々に思い思いに過ごされる。	1階の玄関の周りには、小さな畑や花壇を作り、季節感を大切にしている。リビングに机やイス、ソファが設置され、それぞれに気に入った場所で寛いでいる。常に職員が目に入り、安心して過ごすことができ、3~4名の話の輪ができています。加湿器で空調に配慮し、お花を入れてと管理者がお花を渡すと、思い思いに花を活けるなど、ゆっくと楽しんでいく。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で休まれたり、ホールのソファで寝転んだり、気の合った者同士、話をしたりテレビを見たりしておられる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床頭台の上等、すぐ目につく所にご家族の集合写真を置き眺められる様にしたり、夜間動き廻られても危なくない様に物の置き場にも気を配ったりしています。	畳敷きの部屋や自宅から持参したベッドを使用したり、個人の好みに合わせた居室作りをしている。一晩中、寝ない入居者に職員が「安心してよかですよ」と声をかけると、落ち着くことが多く、すぐに処理をして防臭に努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力でトイレに行ける方の為にその動線が危なくない様に物の片付けや置き場所に気を付けています。「わかる」を増やし、自立の為に支援を工夫している。		